

「域」字の成立起源について

— 中国古典を中心に —

藤本 直子 (Naoko FUJIMOTO)

鳥取短期大学 生活学科 情報・経営専攻

はじめに

三省堂『大辞林 第三版』によると、「地域」とは、「①区切られたある範囲の土地。②政治・経済・文化の上で、一定の特徴をもった空間の領域。全体社会の一部を構成する。③国際関係において一定の独立した地位を持つ存在。台湾など。」とある。現代では「地域」とは上記のような意味を持つ。特に「社会」の一部としての「地域」という、物理的な土地とそこに住む人々やその人々の営みによって形成される社会を含めたものを「地域」と呼んでいる。では、そもそもの文字の成立起源としてはどのようなものであったか、特に「域」字について紹介したい。

1. 「くぎり」「かぎり」としての「域」字

(1) 『周礼』に見える「域」

「域」は先秦時代の同時代資料とされる金文には見られないようである。先秦時代とは、中国において、紀元前 221 年の秦による統一以前の時代を呼び、文献が成立する以前の時代である。つまり、文字の成立は比較的新しく、漢代以降の書物に見られるようである。

『周礼』（地官司徒）に、「以天下土地之圖，周知九州之地域廣輪之數」¹⁾とある。「地」字に従い、「域」字で「くぎり」を意味しているようだ。

(2) 『漢書』に見える「域」

『漢書』（礼楽志）に、「躋之仁壽之域」²⁾とある。顔師古の注(以下、師古注)に「域、界也」とあり、「地」字には従わず、「域」字一文字で「くぎり」を意味しているようだ。

また、同じく『漢書』（賈誼伝）には、「故其在大譴大何之域者」³⁾とある。師古注には「域、界局也」とある。いずれの注にも「域」字は「界」であるとされている。「界」は『説文解字』によると「境」と同意で、「しきり」や「かぎり」を表すようである。

2. 「かぎる」としての「域」字

次に、動詞「かぎる」としての「域」字を紹介する。『孟子』（公孫丑下）に、「域民不以封疆之界」⁴⁾とある。趙岐の注には「域民居民也。不以封疆之界禁之。」ともある。「封疆之界」の「封疆」とは「国境」を「界」は「さかい」を表すので、いずれにしても強く「土地としての領域」を表し、その中に民を「かぎる」ことを表しているようだ。

3. 「くに」としての「域」字

『漢書』（韋賢傳玄成）に、「以保爾域」⁵⁾とあり、師古注に「域謂封邑也」とされている。「封邑」とは諸侯の領地のことであり、ここでの「域」は明確に「くに」を表している。

4. 『説文解字』による「域」字

『説文解字』によると「域」字は、「邦也。从口从戈，以守一。一，地也。」⁶⁾とあり、また、「或」の俗字とされている。また、「或」字について「邦也。从口从戈，以守一。一，地也。」⁷⁾とある。「口」と「戈」と「一」との合字で、「口」は四方の境界、「一」は地、「戈」つまり武器である地の境界を守るという意味である。そもそも「或」字で「くに」や「かぎられた地」を表していたようである。

おわりに

ここまで紹介してきたように、「域」字は「くぎり」や「くに」を表していたようである。しかしながらそもそもは「或」でその意味を表してきたようであり、先秦時代の同時代資料である金文にも「或」字は複数見られる。では、いつごろから「域」字が「或」字の俗字として「くに」や「かぎり」を意味するようになったのか。

『大漢和辞典』によると「後人、或をあるいはの義に用いて以後、くにの義には土偏を加えて域に作り、又は口を加えて國に作る。さらに、域をくににざかい區城等の義に用いる。」とある。また、「或」字について、「或の古音は有と同じであるから、「あるいは」の意味に假借する。」とある。つまり、そもそも「くぎり」や「くに」を表していたのは「或」字であったが、発音が同じ別の意味に使ったところ「域」字がその意味で用いられるようになったそうである。

では、そもそも「或」字はいつごろから使い方が変わってしまったのか。これについては、今後の研究課題としたい。

《注》

- 1) 中國哲學書電子化計劃 <https://ctext.org/zh>
- 2) 『漢書 第四冊』（中華書局） p.1033
- 3) 『漢書 第八冊』（中華書局） p.2257
- 4) 『孟子定本 卷四』（富山房 漢文大系第一巻） p.2
- 5) 『漢書』（中華書局）第十冊 p.3114
- 6) 中國哲學書電子化計劃 <https://ctext.org/zh>
- 7) 同上

《参考文献》

- (1) 『周礼』:『儀礼』『礼記』と共に三礼と呼ばれる。儒家が重視する十三経の一つで、周王朝（紀元前1046年頃～紀元前256年）の制度について記載されているといわれる。成立は漢代以降とされる。
- (2) 『漢書』:後漢（25年～220年）の章帝の時に班固・班昭らによって編纂された歴史書で、前漢（紀元前206年～8年）のことを記したものである。唐（618年～907年）の顔師古による注が付されている。
- (3) 『孟子』:中国戦国時代（紀元前403年～紀元前221年）の儒学者、思想家である孟子の言行をまとめたものである。儒教正典の四書の一つである。後漢の趙岐による注が付されている。
- (4) 『説文解字』:後漢の許慎による最古の部首別漢字字典である。